

第3号

<発行> 名古屋芸術大学  
人間発達研究所

## 「にこにこワークショップ」に寄せて

人間発達研究所長 佐藤勝利

子どもたちは、植えたばかりの生け垣をまたいで友達の家を渡り歩いていました。2階と2階で窓からキャッチボールをしていました。我が家の庭に入れようとした砂で精一杯遊んだ腕白たちが、シャワーを浴びながら“このシャンプー泡が立たないよ”とリンスを1瓶空にしてしまったこともありました。かれこれ27、8年も前の太ノシイ思い出です。

あの子たちが大人になり、街は静かになりました。でも、何か活気のない街になりました。子どもの声が聞こえなくなり、次第的に、ジジ、ババばかりの街になっていったのです。

心理療法を通して子どもたちに接していると、吸い取られる一方のように感じることもある青年期の方々をみているときとは全く異なって、むしろこちらの方がエネルギーを賦活してもらっていることに気づきます。“子育て”という営みにも同じようなことがいえるような気がしています。一日中動き回る子どもの後を追いかけて、ダダをこねる子どもをなだめ、遊んでやり、時には叱り、あやしたりもして……。でも、あの笑顔にあうと、また、昨日できなかったことが今日はできるようになっていく姿を見ると、確実にこちらが元気をもらっている気がしませんか。

嬉しいことに、最近、私の街にも赤ちゃんの声が戻ってきました。転居されるジジ、ババに替わって、新しい方々が入ってこられたのです。“赤ちゃんの声って、いいわねえ”“なかなか迫力のある泣き方だねえ”かみさんとの会話です。

大学でも同じです。木曜日の1時間目の授業が終わりますと、“今日もあの子たちは来てくれたかな”と隣のプレールームを覗きます。“アレッ、この前まではお母さんにはり付ついていたのに、今日はお友達と遊んでいるぞ”“お兄さん、お姉さんにもだいぶ慣れてきたな”そんな思いで覗かせていただいています。

ようこそおいでくださいました。学生たちも、言葉ではうまく表現できなくても、とても貴重な体験をさせていただいているようです。みんなで育っていきましょう。

## にこにこ親子と学生たちのかかわりが弾む

運営委員長 金田利子

「お兄ちゃんいる？ お姉ちゃんいる？」と期待しながら9号棟の3階まで「ヨイショ！～」と弾む声が聞こえてきます。このワークショップも、その前身から数えると4年目を迎えました。今年は、昨年までは授業の多い中なかなか参加できなかった学生たちが、4年生を中心に1年生が次に多く、2年3年生も空き時間を活用して、昨年よりずっと多く参加するようになりました。どの回にも学生たちの作品発表や読み語りなどが入っています。お母さんたちとも仲良しになってきたように思います。参加者の皆さんに毎回書いていただいている感想文が、ワークショップの改善にどう使われているかについてもミニミニ講座の一つとしてお伝えする機会を持ちました。

こんな風に段々と大学で持つ子育て・子育ての場ならではの活動が進みつつあります。2学期は待望の1階の広いスペースに移れます。いっそう子育て・子育てに関する参加者ご自身の居場所として、気持ちの良い場にご一緒にしていきましょう。





2012年度

「にこにこワークショップ」がはじまりました



開催初日  
5月17日(木)

“みんな にこにこ”  
笑顔がすごいです！  
うれしそうですね

☆人間発達研究所長(学部長)  
からのあいさつ☆  
開催日の初日は、22組の親子が参加しました。徐々に入会希望者が増え、7月現在62組の方が登録されています。



みんなの人気者！  
生後6ヶ月の赤ちゃんも参加しています。「これ、あげる！」小さいお姉さんの登場です。



子どもの遊ぶ様子に、お母さん方は安心して、おしゃべりができます。



今日は、お母さんと、かえるを作ろうね。



大学のお姉さんがする紙芝居に、子ども達もお母さんも真剣な顔です。



開催初日の学生の参加は25名でした。一緒に遊んだり、手遊びや紙芝居を見せてくれたりして、子ども達と楽しく過ごすことができました。このワークショップに参加登録の学生は、これからいろいろなことに参加したり、企画をたてたりしてくれます。みんな温かい気持ちで子ども達やお母さん方とかかわりますので、よろしく願いいたします。

### ☆ワークショップ学生参加☆

授業の合間をぬって、毎回数名の学生が「にこにこワークショップ」に参加しています。この場は、皆さんと学生との触れ合いの場でもあり、学生にとっては、手遊び、絵本・紙芝居の読み語り、人形劇を演じたりする、貴重な実践の場でもあります。学生に対してのご理解とご協力をお願いいたします。

学生の「にこにこワークショップ」参加登録者数
4年生 22名
3年生 12名
2年生 7名
1年生 16名
計 57名
(7月現在)



パネルシアター、人形劇、絵本。  
子どもたちは、みんな大好きです。



一人ひとりの子どもの興味ある遊びにていよいよ  
かかわり、子ども達と仲良しになりました。



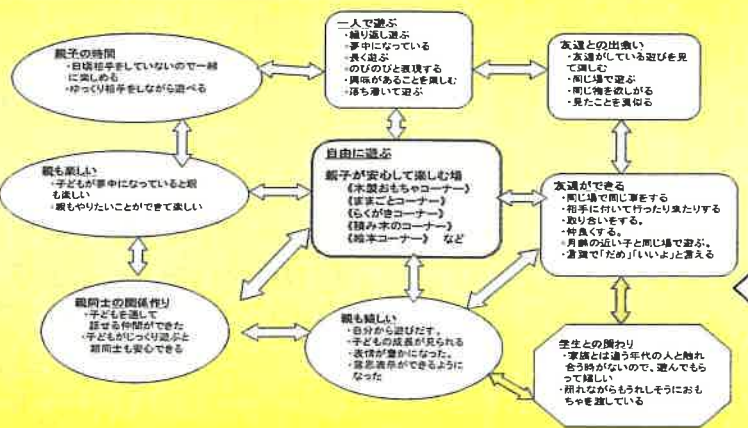




毎回書く感想文は、  
何の役目をするのかしら？

昨年、書いていただいた、感想文  
の集計から得られた結果をお知  
らせいたします。

「自由な遊び」に関する保護者の意識

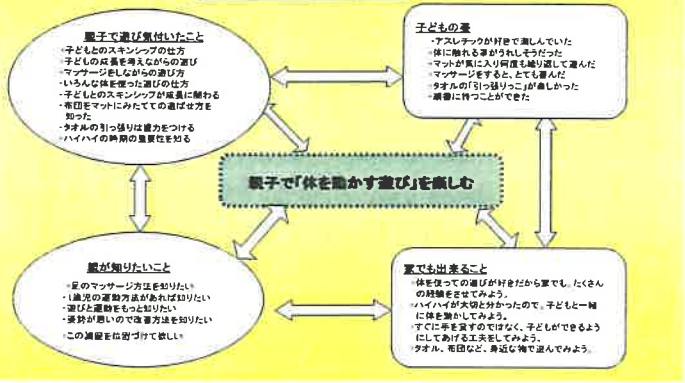


感想文の内容を、ま  
とめると図のよう  
になりました。

- 子どもが思い思いの場所で遊ぶ姿に  
親は安心して見て居られる。
- 子どもの姿を見ながら、親は気持ちを  
開放させ、親同士が友達になりやすい  
状況があると感ずてる。
- 子どもは、発達に応じた形で友達との  
かかわりができると思う。

「テーマ遊び」に関する保護者の意識

「運動遊び」を楽しむ



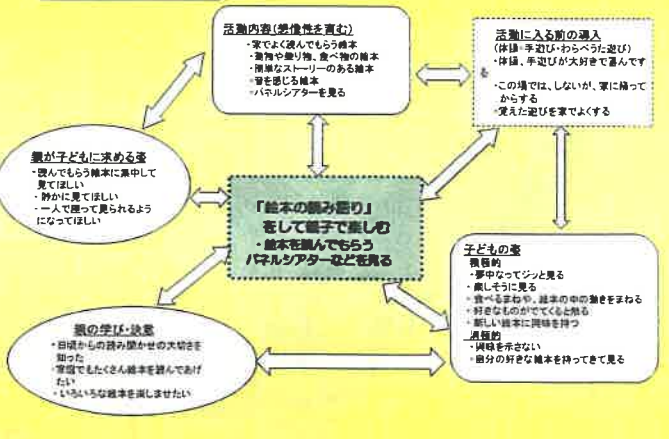
- 親子で体に触れあって遊ぶ事は、親も子  
も楽しく、いろいろな遊びがあることを  
知ることができた。
- 家でも出来る遊びをもっと知りたい。

- 絵本を読んでもらう姿を見て、絵本の読み語りの大切  
さを知ることができた。
- 読んでもらう絵本に集中して見たり、座って見られる  
ようになって欲しい。
- 日頃から、読み語りを家でもしてみようと思った。

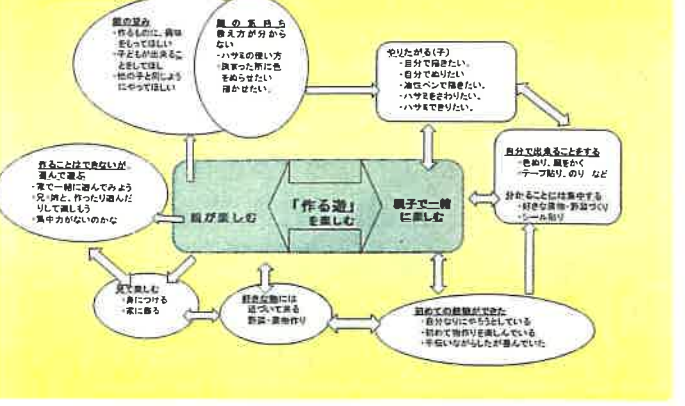
- 活動の目標があると安心して取り組むことが  
できる。
- 子どもに対して、もっと興味をもって欲しい、  
他の子と同じようにして欲しいと、出来栄が  
気になる。



絵本の読み語り



「作る遊び」を楽しむ



感想文のまとめから捉えたワークショップの改善

- 「自由な遊び」と「テーマ遊び」の形態は、親と子にとってど  
ちらも必要なこと分かった。自由な遊びの形態の中で、テーマ遊  
びを取り入れ、二つの形態の相互乗り入れと相乗効果を課題とし  
て、子育て・親育ちにつなげていきたい。
- ミニミニ講座・学生企画ワークショップなどを含めた子育て・親  
育ちの質的な検討に取り組み、また、新たに地域文化を活かした  
世代間交流をとりあげていき、それぞれの場を設けて、人間関係  
を豊かにし地域との文化交流をしていきたい。

# ミニミニ講座

2012年1月18日に開催されました「ミニミニ講座」に、お母さん方から寄せられた感想です

「3カ月・3歳・3年生」

人間発達学部長 佐藤 勝利先生

- ・成長が早いから良いというわけではないことが、よく分かり安心しました。
- ・子どもの時期の成長は楽しみです、成年になる過程を大切にしていきたいと感じました。
- ・小さい時から人との触れ合いを大事にしていき、ひとつずつ階段をのぼっていく姿を、楽しみにしていきたいと思いました。
- ・発達段階を見きわめて、子どもの成長を見ていきたいと思いました。
- ・小さい時の触れ合いをもっと大事にしようと思いました。

## 2012年度 前期に開催された講座

第一回 6月27日(水)

古川 美枝子先生 「楽器で遊ぼう」

第二回 7月4日(水)

加藤 暢夫先生 「子育てのポイント  
一食(内部被爆)育一」

内容等につきましては、次回にお知らせいたします。

## ♡ おかあさんの声 ♡ —ワークショップ、ミニミニ講座に参加して—

このワークショップ、ミニミニ講座での出会いが、子どもと向き合うとき、親として考えること悩むことがあるとき、小さなヒントや元気を私に与えてくれました。親も子ども、後で思うときさやかなことでも、ふとつまずいたり、前に進めないことを繰り返したりしていく中で、ちょっと変わってみたり、感じたりしてみると、何より大切だと気付かせてもらいました。これからはたくさん迷うと思いますが、できるだけ楽しく子どもと一緒に乗り越えていきたいです。

4月より幼稚園児になったお子さんの  
おかあさんより

## 速報



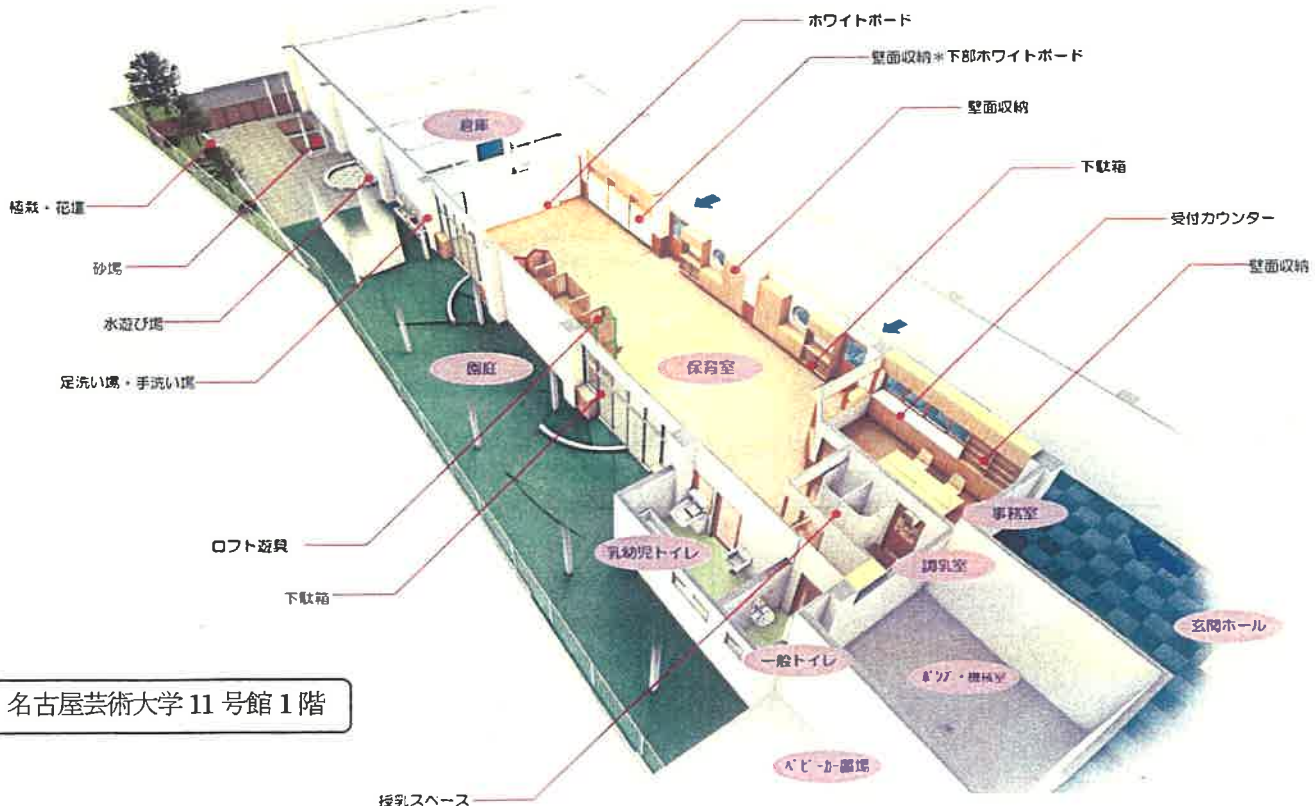
11号館  
ここです!

11号館

9号館

食堂

10月からは、11号館1階で「にこにこワークショップ」をおこないます。



名古屋芸術大学 11号館 1階